西浮通信

令和６年４月３０日
ＮＯ．４０２
北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

学校教育目標「自ら育つ子」の育成を目指して

校長　小島　みつる

西浮っ子の一人一鉢のさくら草が今年もきれいに咲きました。近年はほとんどの鉢で開花していますが、数年前は三分の一くらいの鉢では開花しない、ということもありました。改善要因は、浮間が原さくら草保存のプロが育てた芽を購入したり分けていただいたりして、その芽を大切に育ててきていることにあります。花の盛りを過ぎたら摘花と増土をし、その後は雑草取りと水やりを丁寧に行い、芽を育てていきます。本校では圃場があり水やりはさくら草の育成のために自動散水していますが、雑草取りはしっかり児童の手で行っていく予定です。

さて、コロナ禍を経て、「学校」の存在価値について改めて考えるようになりました。子供たちに学力を付けることは学校の命題ではありますが、それだけが学校での学びではなく、「多様な集団活動」の中で、将来にわたって人と協働・協同し社会で活躍できる豊かな人間力を育てる事が何よりも大切なのではないかと考えました。また、これからの社会では、既存の物事ではなく、その時点、状況で何がベストなのかを自分で考え判断し、その何かを創造することも重要です。本校では、学校教育目標を「自ら育つ子」とし、目標の具現化に向けて特に下記の５つの力を取り上げ、それらを育て高める取り組みを充実させてまいります。

「自ら育つ」ために育てたい力

- **自主性**　人に言われる前に、やるべきことを自分でやる力
- **想像力**　実際には経験していない事柄や人の思いなどを推し量る力
- **主体性（自己決定力）**　何をすべきか自分の意思や判断で行動する力
- **創造力**　今ここにない新たなことを創りだす力
- **協調性（よりよい仲間づくり）**　互いに高め合い、目標や目的に向かって仲間と助け合う力

令和６年度の重点
「自主性と想像力」

経営方針に「豊かな人間力の育成」を掲げています。この「豊かな人間力」の一番は、人の思いを感じ取れる心をもつということです。喜び、悲しみ、淋しさ、迷い…というように人の思いを想像できるということです。では、「想像力」を育てる有効な手段は何でしょうか？ 一番の近道で効果的なのは「読書」だと思います。読書は通常では体験できないことも体験できます。想像の翼を広げて本の中の世界を旅することも豊かな体験なのです。本を読むことで、登場人物に自分を投影し、幸せな気持ちになったり、憤りを覚えたり、と感情が揺さぶられます。読書は、想像力によってものの見方・感じ方を豊かにしてくれます。テレビや映画などでも同じような思いをもてるかもしれませんが、映像がある分、想像する必要がなく、想像力の向上にはつながりません。

子供に読書をする力をつける一番の方法は、お父さん、お母さんが読書をすることです。子供は親の背中を見て育ちます。親がいつもスマホを手にゲームばかりしていたら、子供もそう育ちます。ぜひ、読書する親、本の世界に入り込む親の姿を子供に見せるともに、読み聞かせや親子で同じ本を読む体験をしていただきたいと願います。親の感性を通して広がる想像の世界は、ネット配信される映像よりも間違いなく子供の心の栄養になります。わくわくする主人公の活躍、どうしようもなく涙が出てしまう結末など、子供と一緒に同じお話の世界を旅して、同じ感情を味わうことで、親子の絆は深まります。

「折々の遊ぶいとまはある人の　いとまなしとて書（ふみ）読まぬかな」これは、江戸時代の国学者、本居宣長が詠んだ短歌です。「遊ぶ暇がある人も時間がないと言って、本は読まないものだ」という意味です。ぜひ、「親子で読書」の時間を作ってみてください。